

感動新聞 平成23年3月号 発行者 細川栄一

皆様、元気ですか？ ATM(明るく、楽しく、前向き)に頑張らしましょう！これからもよろしく願い申し上げます。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

人を喜ばすことを考えよ

精神分析医として非常に有名なアドラーというドイツのお医者さんがいますが、彼は何千人となく精神病患者を治してきた。彼の著書の中に、面白いことが書いてあります。

「私の言う事をきけば、患者は二週間で全快する」

それはどうするのか？

「どうやったら人を喜ばすことができるかという事について考え始めればよい」
というのです。

重大な意味が含まれていますね、この中には。

人を喜ばせとっているんじゃないんです。

自分がどういうことをしてあげれば、人を喜ばすことができるかということについて、考え始めればよいとっているのです。

人生が常にうまくいかない人は、自分の心配、自己中心的な心配ばかりしているんです。

自分の未来についての心配です。

自分の心配ばかりしていると、その緊張感によって心と体が遂に耐えられなくなって、細胞破壊が始まるのです。

この時に「自分についての心配」というものを「他人についての喜び」というものに、考える意識テーマを変えてみる。

そうすると、どうやったら人を喜ばすことができるだろうかということに才覚を巡らせている間は、自分についての心配をする時間から開放され、休息することができるわけです。

だからその休息がなければ、その人は治らないのです。

ところが面白いことに、アドラーに対して患者はこう言うのだそうです。

「ああ、それなら簡単だ。いつも私がやっていることだ」

そして**「それなのにあいつらは、私に感謝せんのですよ」**と言う。(笑い)

それじゃあ、何にもならない。

自分に感謝しないとムツとしているのは、やっぱり自分中心のことを考えているのです。

自分の自己重要感にとらわれているのです。

それくらい自己中心的であるのです。

人を喜ばせるにはどうしたらいいかということに、しょっちゅう没頭することです。

そういうことを考えている限り、我々は自分をスポイルするような、自己中心的な悩みから脱却できているはずです。

自分に対する心配を、「愛の発動」、他を愛する喜びに変えよということ、実質的にアドラーは言っているわけです。

この文章は平成13年5月(約9年前)にDM「感動新聞」で出版して文章です。

本質は全く変わらないのだな～と感じる次第です。

自我中心的な考え方から、自分が周りの人にどんなことで、お役に立つことができるのか？

常にそれを考えていると幸せになるということですね。

(私自身もなかなか出来ませんが、少しでも.....そんなことで感動新聞を書いています)